

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合っ作成した事業所理念を施設内に掲示や職員の名札裏に記載すると共に、事例検討や内部研修時等に振り返りの機会を設け、理念に基づいたケアが提供できるよう取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、事業所が目指すサービスのあり方についてを職員全体で話し合い事業所独自の理念を作り上げ、管理者と職員は共有している。利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるように、事例検討会や内部研修時、または気づきのあった時にも振り返りの機会をもちながら、サービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや近隣で開催される認知症カフェに参加したり、当法人内の地域福祉担当者と連携し老人クラブ行事等への参加を積極的に行っている。また、町内会にも加入しており運動会などの地域行事にも参加している。	法人内の地域福祉担当者と連携し、町内会にも加入することで地域との基盤作りが築かれている。地域の防災訓練への参加、老人クラブ行事への参加や町内のお祭り、真野地区の運動会では高齢者が参加できる種目に参加し、力を発揮するなど、近隣の方々とふれあう機会が多い。また、畑の作物の手入れや収穫時の活動など日常的な交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や実習等の受け入れや運営推進会議の実施などの機会を通じて認知症の人の理解や支援の方法について発信している。また、地域の方からの相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催し、施設の現状や問題点、取り組み状況などを説明し、各委員から意見や要望をいただき施設の運営に活かしている。	運営推進会議は家族、利用者の参加も得て定期的開催され、2ヶ月間の状況報告及び事業所の取り組み内容や課題について報告し、メンバーからの質問や、意見、要望に対して、双方向的な会議となるよう心がけている。また、メンバーからの意見をサービス向上に具体的に活かしていくように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは2ヶ月に1回の運営推進会議への出席時に取り組み内容や問題点を伝えている。必要時にはその都度、電話やメールで連携を図っている。	市の担当者とは定期的に事業所の取り組み状況や利用者の暮らしぶりについて報告するなど、協力体制が築かれている。また、運営推進会議には利用者の暮らしぶりを見てもらえる機会としており、必要時には何でも相談出来る関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じて、身体拘束の対象となる具体的な行為について学んでいる。施設玄関の施錠は防犯上20時～6時まで実施し、日中は自由に出入りしていただいている。	外部研修や法人内の研修等で、「身体拘束による弊害」についてを学ぶことで、利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識を強く持って実践している。一人ひとりの利用者理解に務め、利用者の安全を確保しながらも抑圧感のない自由な暮らしの支援に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、高齢者虐待防止法や事例について学んでいる。また、法人内研修や伝達研修にて職員のメンタルヘルス研修を実施し、職員の心の健康維持を図っている。	「高齢者虐待防止法」や事例を下に内部研修の機会を設け、職員全体への理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。また管理者は職員の疲労と利用者の様子に注意を払いながら、メンタルヘルスに関する内部研修の機会を設け、職員の心の健康維持を図る配慮に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用されている入居者の事例を通じて学んでおり、他の入居者への必要性の検討につながっている。また、必要性を感じる方に対しては、入居時等に関係者へ説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定の際は利用者や家族等に対しわかりやすい説明を行い、疑問点を解消し納得していただけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時に家族等と一緒に話す時間を設けたり、散歩や入浴時に職員と1対1で接する機会などを活用して入居者・家族等の意見や要望を引き出せるよう工夫を行っている。 問題とを感じる意見等に関しては、ユニット会議などで速やかに共有し改善につなげている。	利用者、家族のからの意見は事業所にとって大切な宝と認識し、家族面会時には気軽に何でも話してもらえる雰囲気づくりに努めている。利用者同士の何気ない会話の中や、散歩、入浴時の1対1の関わりの中で聴かれる意見、要望をくみ取ることに努めている。頂いた意見や要望はユニット会議で共有し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に各ユニットで会議を開催し、自由に意見等を出し合い所長や支所長へ議事録等で報告している。 事業所だけでは対応が困難な事例については、本部へも報告し解決につなげている。	定期的に行われる各ユニット会議は、職員の忌憚のない意見や要望を聴かれる機会であり寄せられる意見も多い。管理者は現場職員からの意見をしっかり取り入れ、共に話し合いながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で職員の資格取得を奨励しており費用等の助成や資格手当の創設、取得方法の情報提供などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間研修計画を作成し、外部・法人単位・支所単位・事業所単位等の研修を職員一人ひとりのキャリアや力量に応じて受講できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内5カ所の全グループホームが参加するグループホーム協議会を設置し、年4回情報交換や運営などについて検討を行っている。 また他施設の運営推進会議に出席し、互いのサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に日常生活に関する調査票に基づき本人の状態を把握し、不安や要望を感じ取り信頼関係を築けるよう努めている。また入居前に施設見学をお勧めし、不安を軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に要望や困っていること等を把握し問題解決の努力をするとともに、話しやすい関係となるよう信頼関係の構築に努めている。また、前任のケアマネジャーなどから情報をいただき、支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの聞き取りや担当ケアマネジャーとの情報交換などから必要な支援を見極めている。必要時には各施設等と連絡を取り合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の能力に合わせて一緒に作業や行事等に参加することによって、お互いが支えあって共に生活できる場となるよう努力している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしぶりなどをおたよりで毎月家族に報告したり、一時帰宅や通院介助などの協力をお願いし積極的に連絡を取り合うことで、気軽に訪問できるような雰囲気作りに努めている。	利用者や事業所にとって家族の支えは大切なものと考え、家族面会時には本人の健康状態や写真を載せた手紙を送り、家族から安心の言葉を頂いている。通院の付き添いや自宅外泊などの協力もいただくなど、本人、家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく姿勢で自然な関係性を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りや運動会に参加したり、馴染みの友人との食事会に出掛けたりするなど交流が継続できるよう支援している。また親族や知人の方が気軽に面会に来られるような雰囲気作りに努めている。	地域の祭りや運動会に参加したり、馴染みの友人との食事会に出かけたり、今まで利用してきた理美容院へ行くこともある。事業所を利用していても、今迄の生活の延長線上にあるように、なじみの接点を持ちながら継続的な交流が出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間散歩に行ける時間を確保したり、部屋の行き来をし、入居者同士が交流できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者の家族に対しても、いつでも相談ができることをお伝えし、必要時には医療機関や他施設への情報提供・手続き等の支援や相談等に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話の中で表情や発言を見逃さず、本人の希望や意見を汲み取り、ケアに反映できるよう努めている。	センター方式のアセスメント票を活用し、本人、家族、前事業者からも情報を得ている。日々の関わりの中でも言葉や表情、生活スタイルから思いや希望、意向などの把握に努めている。ミーティングや日々の介護記録についても職員間の共有を図り、ケアの充実に向けた支援が可能となるよう心がけている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・在宅ケアマネジャー・包括支援センター・利用していたサービス事業所から情報を収集し、入居後も日々の会話や面会などの話から本人の理解に繋げ、馴染みのある生活が継続できるよう努めている。	本人や家族からこれまでの暮らし方や生活歴を聴くと共に、本人との会話の中や繰り返し話す言葉の中からも本人理解に繋げ、これまでの暮らしの把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・ユニットの申し送りノート・バイタル測定表・朝礼での申し送り・定期的に行うユニット会議・私の基本情報シートなどを活用し、職員間で現状把握・情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、モニタリング・評価・介護計画書を作成している。遠方、欠席の家族には電話や面会時に要望や意向を確認している。	本人がよりよく暮らすために、日頃の関わりの中からも本人、家族の要望について職員間で話し合いを持ち、本人、家族も参加するモニタリング、カンファレンスを基に検討し介護計画に反映させている。また、必要時は期間によらず随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき・工夫は個別記録や申し送りノート、口頭などで情報共有した上で定期的カンファレンスを行い、実践や介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	墓参りや帰宅の支援や買い物など、本人や家族の希望や状況に応じて柔軟に対応している。 また法人内の地域福祉係と連携して幅広く行事等に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の買い物や地域の祭りや行事、認知症カフェへの参加や老人クラブの行事などに積極的に参加するとともに、傾聴ボランティアの受け入れなどを通じて地域住民やボランティア等との交流を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等が希望する主治医に受診できるように対応している。 希望や状況に応じて、事業所職員による受診の援助も行っている。	協力医療機関を主に受診しているが、入所前の医療機関の受診継続も大切にしている。協力医療機関は事業所に対応するケースが多く、家族への情報伝達はこまめに行っている。在宅時からの医療機関への受診は基本的に家族同行となっている。本人の状況については報告書を作成し確認してもらっており、受診結果についても家族に確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師の配置はないが、協力医療機関等の受診時に情報や気づきを伝達するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は患者情報連絡票を用いて医療機関に情報提供を行い、入院中は面会や医師や看護師・ケースワーカー等との情報交換を通じて状況の把握を行うことで、本人・家族が安心して治療できるように努めている。また医療・福祉の連携に関する検討会等に積極的に出席し病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について契約時に説明し同意を得ている。 また状態の変化に応じて、本人、家族、主治医等と協議して方針を共有し不安の軽減に努めるとともに、他の介護施設利用についても支援を行っている。	入居時に重度化した場合の事業所指針を説明し、終末期のあり方について同意を得ている。重度化した場合は本人、家族、主治医と相談を持ちながら方針を共有して不安軽減に努め、他の介護保険施設への移行支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、AEDの使用訓練、応急手当や初期対応の訓練を定期的実施するとともに、夜間の協力体制についてマニュアル等に明記し速やかに連絡がとれるようにしている。	消防署の協力を得て救命救急法やAEDの取り扱いの研修を実施し、実践力を身につけている。緊急対応マニュアルや緊急連絡網が作成されており、迅速な対応が出来るようにしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の事業所と避難訓練を実施したり、実際に避難場所までの移動訓練を行い、避難時の経路や場所、問題点を職員間で共有している。 また、地域の自主防災会へ参加し地域との協力体制の構築に努めている。	災害時に慌てずに確実な誘導ができるように避難経路の確認が実施されている。消防署の指導を受け定期的に避難訓練を実施している。防災に関するマニュアルや緊急連絡網も作成されており、災害時の備蓄も確保されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある姿を大切にし、プライバシーに配慮した言葉掛けや対応を行っている。	接遇やプライバシー保護についての研修を行うことで、職員への意識の浸透を図っている。日頃の振り返りや自分自身の身内に置き換える気持ちを持ちながら、一人ひとりを尊重した言葉掛けに配慮し、誇りやプライバシーが損なわれないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい言葉掛けや雰囲気作りに努めている。思いが伝えづらい方には選択肢を出し、選びやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズム維持のため一日の流れは大まかに決まっているが、本人のペースで生活できるよう柔軟に対応している。体調にも配慮し、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には通い慣れた美容院へ行けるよう対応している。個性を大切にし、買い物に出かけた際は好みに合ったものを選べるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を生かし、下ごしらえ・盛り付け・食器洗い・食器拭きを行っている。ユニットの畑で収穫した野菜を使ったり出前を取るなどし、いつもと違った雰囲気の中で食事を楽しんでいただける工夫もしている。	利用者の好みを聞きながら、畑で収穫した野菜や地域の方の差し入れなどの食材を使用しながら、職員と共に食事作りや後片付けを行うなど、食事が楽しみなものとなるよう力を発揮している。時には出前などで普段と違う雰囲気の中で食事を楽しんでもらったりの工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食の栄養バランスを考え、嗜好や体調に配慮し、身体状況に合わせた調理法で提供している。季節感を盛り込み色彩豊かにし、見た目も大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや支援をし、夕食後は義歯の消毒を実施している。また、外出後もうがいを促し、口腔内の清潔保持と感染予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声掛け・誘導を行っている。リハビリパンツや尿取りパット類はあくまでも補助的なものと考え、なるべくすっきりと排泄ができるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握することにより、その人にあった介助や声掛けで誘導し、できる限りトイレでの排泄を支援し失敗を最小限に抑えるケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれているお茶を飲んでいただいたり、散歩や体操を日常的に取り組み、自然排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に一～二日おきに入浴を実施し、しょうぶ湯やゆず湯など入浴を楽しめる工夫をしている。体調や希望に応じて対応し、本人のペースで入浴が行えるよう配慮している。	15時から17時半の間に利用者の希望やタイミングに合わせて、最低週2回は入浴できるように支援している。入浴中は普段聴かれないような話も聴かれるのでリラックスの時間を大切に、安全面に配慮しながらも入浴を楽しんでもらっている。また、ゆず湯やしょうぶ湯といった季節湯も楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室でゆっくり自分の時間を楽しんだり、休息していただいている。寝具、室温調節、照明についても配慮し、気持ちよく休めるよう衛生面も気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時はダブルチェックを行い、誤薬がないよう留意している。また、用法や用量、効能や副作用に関してはクスリの説明書等を確認し、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じて調理・畑の水やりなど役割分担をしている。趣味・嗜好品のある方に対しても個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の購入、お墓参り、希望される方には家族の協力を得て外泊を行っている。行事計画を立て、季節に合わせた花見ドライブや地域の運動会にも参加している。	利用者の希望や季節に応じた外出行事の支援に努めている。天気の良い日は敷地内の散歩や畑での作業、また、買物等に出かけ心身の活性化を図っている。地域行事や季節を感じる場所など、利用者の希望する場所に出かけるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金からの買い物は本人が支払いできるような支援している。希望があれば金銭の本人所持も可能としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人と自由に連絡が取れるように希望に応じて支援している。ユニット内での通話を気にされる方は事務所の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには季節の花を飾っている。七夕やクリスマスなどは入居者の方と一緒に飾りつけを行っている。室温や清潔さにも気を配り、居心地の良い空間作りにも努めている。	気持ちを和ませるゆったりとした空間は掃除が行き届き、清潔感があり彩光や温度調節も配慮されている。また、玄関やリビングのテーブルには季節の花が飾られ、利用者の心を和ませてくれ、居心地の良い空間となり、利用者が集い明るい笑い声の聴かれる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子席では同じテーブルの気の合った方と談笑でき、フロアに置いたソファでは一人でゆったりくつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物や馴染みの物を持ってきていただいている。タンス、ラジオ、椅子、思い出の写真等も設置してもらい居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	自宅で使用していた慣れ親しんだものを持参してもらい、家具の配置を相談しながら安心して落ち着いた居室空間を作り、居心地よく生活できるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活行動の把握に努め、危険な所がないか確認し、行動の妨げにならないよう配慮している。居室には名前を表示し、分かりやすいよう工夫している。		